ペンテコステ

使徒の働き2:1〜6

2:1 五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた。
2:2 すると突然、天から、激しい風が吹いてくるような響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡った。
2:3 また、炎のような分かれた舌が現われて、ひとりひとりの上にとどまった。
2:4 すると、みなが聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話しだした。
2:5 さて、エルサレムには、敬虔なユダヤ人たちが、天下のあらゆる国から来て住んでいたが、
2:6 この物音が起こると、大ぜいの人々が集まって来た。彼らは、それぞれ自分の国のことばで弟子たちが話すのを聞いて、驚きあきれてしまった。

ユダヤの三大祭り

1．過越の祭り（ペサハ）
2．七週の祭り（シャブオット）
3．仮庵の祭り（スコット）

ペンテコステ（五旬節）

「七週の祭り」「刈り入れの祭り」とも呼ばれ、過越の祭に続く種を入れないパンの祭で大麦の初穂をささげてから七週間後、50日目の祭であり、この祭は，大麦の収穫の終りを告げ、同時に小麦の収穫の始まりを告げている。ユダヤの三大祭りのひとつ。

約束の聖霊

「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。ヨハネは水でバプテスマを授けたが、もう間もなく、あなたがたは聖霊のバプテスマを受けるからです。」
（使徒1:4〜5）

イエスさまは、復活後に昇天する際、弟子たちに約束の聖霊を受けるまでエルサレムにとどまるように教えた。

クリスチャンにとってのペンテコステ

120人ほどが、ある屋上の間で祈りに専念しながら聖霊の降臨を待っていたところ、五旬節に、聖霊が激しい響きとともに彼らに下った。

クリスチャンにとってのペンテコステは，この**聖霊降臨を記念する日**となった.

ペンテコステの意義

①諸国の霊的刈り入れの始まり
そこで、彼のことばを受け入れた者は、バプテスマを受けた。その日、三千人ほどが弟子に加えられた。（使徒2:41）

②教会の始まり
そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。
（使徒2:42）

③イエスの身体的臨在の代り
父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。・・・その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちにおられるからです。
（使徒14:16-17）

④律法が聖霊によって信じる者の心の内に刻まれた
わたしは、わたしの律法を彼らの思いの中に入れ、彼らの心に書きつける。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。
（ヘブル8:10）

⑤ヨエルの預言の成就
これは、預言者ヨエルによって語られた事です。『神は言われる。終わりの日に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。　（使徒2:16-17）

聖霊によって舌を制御する

3:8 しかし、舌を制御することは、だれにもできません。それは少しもじっとしていない悪であり、死の毒に満ちています。
3:9 私たちは、舌をもって、主であり父である方をほめたたえ、同じ舌をもって、神にかたどって造られた人をのろいます。
3:10 賛美とのろいが同じ口から出て来るのです。私の兄弟たち。このようなことは、あってはなりません。

聖霊に満たされると、**舵取りは自分ではなく聖霊ご自身に**なる。何を語るべきかも、聖霊が促し、何を行なうべきかも、聖霊が語られる。

自分が考えていることを行なうのではなく、聖霊がお考えになっていることをことごとく行なうようになってくる。

聖霊降臨を描いた
15世紀の写本

賛美と聖霊

エペソ5:18 また、酒に酔ってはいけません。そこには放蕩があるからです。御霊に満たされなさい。
5:19 詩と賛美と霊の歌とをもって、互いに語り、主に向かって、心から歌い、また賛美しなさい。

「御霊に満たされる」とは、御霊に支配されることであると分かる。酒に酔うとは酒に支配される状態である。外側から見たら、これらの２つはとても良く似ている。酒に酔うと、大声でしゃべったり、歌ったりする。御霊に満たされると、互いに語り、主に向かって、心から歌い、また賛美するようになる。また、酒に酔うと、人目をはばからず、自分がしたいことをする。

つまり、大胆になって人を恐れなくなるということである。御霊に満たされると、恐れがなくなり、キリストのことを証し、ある場合は、癒しのために祈りをするであろう。

エペソ5：18「**御霊に満たされなさい**」はギリシャ語聖書では、継続の意味があり、正確に訳すならば、パウロはエペソの人たちに「御霊に満たされ続けなさい」と命じていることになる。

つまり、「あなたは毎日、御霊の影響下で生活しなさい」ということである。「かつては」「あの時は」では、いけないということ、ずっと、御霊に酔ったまま生きよ」ということである。

キリストの証人ペテロの説教

イスラエルの人たち。このことばを聞いてください。神はナザレ人イエスによって、あなたがたの間で力あるわざと、不思議なわざと、あかしの奇蹟を行なわれました。それらのことによって、神はあなたがたに、この方のあかしをされたのです。これは、あなたがた自身がご承知のことです。あなたがたは、神の定めた計画と神の予知とによって引き渡されたこの方を、不法な者の手によって十字架につけて殺しました。**・・・神はこのイエスをよみがえらせました。私たちはみな、そのことの証人です。**

（使徒2:22～36）

別人のように大胆に証しした

御霊に満たされた初代のクリスチャンは、キリストを大胆に証し、しるしや不思議を行なったので、ユダヤ教徒たちから迫害された。

そのように考えると、御霊に満たされるとは、迫害を恐れずに、初代教会の人たちがしたように生きるということではないか。

十字架の前の弟子たちは、恐れて隠れていた。ところが、ペンテコステの日から、別人のように福音を宣べ伝え、キリストが今も生きておられることを証明したのである。